



TITLE:

# 『京都大学高等教育研究』編集規定/投稿規定・表紙・目次・奥付

AUTHOR(S):

---

CITATION:

『京都大学高等教育研究』編集規定/投稿規定・表紙・目次・奥付. 京都大学高等教育研究 2016, 22

ISSUE DATE:

2016-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/219535>

RIGHT:

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究  
第 22 号

---

京都大学高等教育研究開発推進センター

2016

# 目 次

## 第一部 論 考

### 実践報告

「キットビルド概念マップと組み合わせた映像講義による選択的再視聴支援システムの実践利用と利用結果の分析」

林 雄 介	広島大学大学院工学研究科	
前 田 啓 輔	広島大学大学院工学研究科	
本 多 俊 雄	広島大学大学院工学研究科	
北 村 拓 也	広島大学大学院工学研究科	
茅 島 路 子	玉川大学文学部	
平 嶋 宗	広島大学大学院工学研究科	1

「大学生が地域社会を変革する「地方創生モデル」の開発—地方都市におけるフットパス導入による地域活性化の事例を用いて—」

見 館 好 隆	北九州市立大学キャリアセンター	
廣 川 祐 司	北九州市立大学基盤教育センター	
村 江 史 年	北九州市立大学地域共生教育センター	
内 田 晃	北九州市立大学地域戦略研究所	11

「学術英語技能統合型タスクにおける足場がけの提案—学習者習熟度の観点から—」

細 越 響 子	京都府立大学文学部	
金 丸 敏 幸	京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター	
高 橋 幸	京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター	21

「高等教育のイノベーションを担う次世代大学教育人材の育成—東北大学履修証明プログラムの開発と成果—」

和 田 由里恵	東北大学高度教養教育・学生支援機構	
齋 藤 ゆ う	東北大学高度教養教育・学生支援機構	
杉 本 和 弘	東北大学高度教養教育・学生支援機構	31

「サービス・ラーニングによる集団的な教育実践における学習評価と実践評価のあり方」

山 口 洋 典	立命館大学共通教育推進機構	
河 井 亨	立命館大学教育開発推進機構	43

「パフォーマンス評価を活かした高大接続のための入試—京都大学教育学部における特色入試の取り組み—」

楠 見 孝	京都大学大学院教育学研究科	
南 部 広 孝	京都大学大学院教育学研究科	
西 岡 加名恵	京都大学大学院教育学研究科	
山 田 剛 史	京都大学高等教育研究開発推進センター	
斎 藤 有 吾	山口大学大学教育センター	55

## 研究ノート

「大学図書館による情報リテラシー教育における評価の検討—学習評価の構図に基づいて—」

飯 尾 健 京都大学大学院教育学研究科…………… 67

「思考整理に焦点をあてた協働的ライティング活動の試み—プレライティング活動が学生の学習に及ぼす影響—」

辻 香 代 立命館大学言語教育センター…………… 77

---

## ショートレポート

「カヤックを使った自然体験活動を取り入れたアクティブ・ラーニングの教育効果」

松 尾 美 香 岡山理科大学教養教育センター  
望 月 雅 光 創価大学教育・学習支援センター…………… 87

「ペア活動における学生の温度差について」

秋 本 慶 子 大分県立看護科学大学看護学部  
吉 村 匠 平 大分県立看護科学大学看護学部…………… 91

「日本の大学における学術英語カリキュラムの現状と課題—実態調査結果を踏まえて—」

飯 島 優 雅 獨協大学経済学部  
渡 辺 敦 子 国際基督教大学リベラルアーツ英語プログラム  
マスワナ紗矢子 お茶の水女子大学外国語教育センター  
渡 寛 法 滋賀県立大学全学共通教育推進機構  
堀 晋 也 早稲田大学教育・総合科学学術院  
高 橋 幸 京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター  
金 丸 敏 幸 京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター  
田地野 彰 京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター  
寺 内 一 高千穂大学商学部…………… 95

「主体的な学習を促す「学ぶ場」づくりの実践」

山 崎 泰 央 石巻専修大学経営学部…………… 99

「長期インターンシップの教育的効果」

高 澤 陽二郎 新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター  
西 條 秀 俊 新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター…………… 103

「問いの生成を起点とする論証型レポート作成の支援—初年次教育を事例として—」

伏木田 稚 子 首都大学東京大学教育センター  
安 斎 勇 樹 東京大学大学院情報学環  
伊 藤 奈 央 丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部  
山 内 祐 平 東京大学大学院情報学環…………… 107

「アクティブラーニングに向く学生・向かない学生を探る—ジグソー学習法・LTD 話し合い学習法の分析から—」

嶋 田 みのり 東北学院大学ラーニング・コモンズ  
富 岡 比呂子 創価大学教育学部  
森 川 由 美 創価大学学士課程教育機構…………… 111

「学修の振り返りを促進する授業設計—アクティブ・ラーニング型初年次教育プログラムの事例から—」

久保田 祐 歌 徳島大学総合教育センター

吉 田 博 徳島大学総合教育センター…………… 115

---

## 高等教育の動向

「教学 IR 担当者はどのような指標を扱うのか」

松 田 岳 士 首都大学東京大学教育センター…………… 119

「学びと成長を見据えた高大接続・高大連携—アクティブラーニングでつなぐ、つながる—」

川 妻 篤 史 桐蔭学園高等学校…………… 127

---

## センター教員・共同研究論考

「資質・能力の新たな枠組み—「3・3・1 モデル」の提案—」

松 下 佳 代 京都大学高等教育研究開発推進センター…………… 139

「Bifactor モデルによるアクティブラーニング（外化）尺度の開発」

溝 上 慎 一 京都大学高等教育研究開発推進センター

森 朋 子 関西大学教育推進部

紺 田 広 明 関西大学教育推進部

河 井 亨 立命館大学教育開発推進機構

三 保 紀 裕 京都学園大学経済経営学部

本 田 周 二 大妻女子大学人間関係学部

山 田 嘉 徳 大阪産業大学学部学科再編準備室…………… 151

## 第二部 記録

### 日誌・業績

高等教育研究開発推進センター日誌（2015 年 4 月～2016 年 3 月）…………… 163

高等教育研究開発推進センター組織（2015 年 4 月～2016 年 3 月）…………… 176

高等教育研究開発推進センター教員業績（2015 年 4 月～2016 年 3 月）…………… 179

### 『京都大学高等教育研究』規定

『京都大学高等教育研究』編集規程…………… 199

『京都大学高等教育研究』投稿規程…………… 199

## 『京都大学高等教育研究』編集規程

(2016 年 5 月 18 日改正)

1. 本誌は高等教育研究を目的として、京都大学高等教育研究開発推進センターが発行する研究誌である。
2. 本誌には、本センター関係教員の論考、共同研究の報告その他本センターの研究活動に関する記事等を編集掲載するほか、投稿論考、招待論文を掲載する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論考の掲載を希望する者は、所定の投稿規程に従い、編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論考の掲載および論考の区分は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載された論考について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

(附則) 本規程は、2016 年度発行の『京都大学高等教育研究』第 22 号から施行する。

---

## 『京都大学高等教育研究』投稿規程

(2016 年 5 月 18 日改正)

(全般)

1. 論考の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとする。
2. 論考は、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポート、招待論文、センター教員・共同研究論考に区分される。  
①研究論文：学問的な手続きに基づいておこなわれた、高等教育に関する独創性・新規性のある研究で、その研究結果が高等教育研究の発展に寄与する論考  
②研究ノート：独創性・新規性は十分ではないが、高等教育研究への有益な資料となる論考  
③実践報告：高等教育研究への示唆となる、高等教育に関する実践の報告  
④ショートレポート：高等教育に関する理論的・実践的な知見をまとめた短い論考。ただし、前年度の大学教育研究フォーラムでの発表内容を発展させたものであり、投稿できるのは第一発表者のみとする（連名は可）。  
⑤招待論文：編集委員会が寄稿を依頼して書かれた高等教育に関連する総説、動向の紹介等の論考  
⑥センター教員・共同研究論考：センターの教員の論考もしくはセンターの共同研究に関わる論考
3. 論考は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
4. 論考を投稿する場合、研究論文、研究ノート、実践報告、ショートレポートのいずれかの希望する区分を明記する。なお掲載にあたって編集委員会が区分の変更を求めることがある。
5. 投稿された論考は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
6. 論考は原則として日本語あるいは英語を用いて作成するものとする。ただし、ショートレポートは日本語のみとする。
7. 論考は以下の作成要領（詳細は「テンプレート」参照）によって作成するものとする。ただし、招待論文、センター教員・共同研究論考は(1)に準ずるが、費用・分量については、この限りではない。

(1) 研究論文、研究ノート、実践報告

〈日本語の場合〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）で、原則 10 ページ以内（最大 12 ページ以内）。
- ＊ フォントは、(日) MS 明朝、(英) Times New Roman、文字サイズは 10 ポイントとする。
- ＊ 上記のページ数には、表題、要旨（日本語：400 字程度、英語：200～300 語程度）、キーワード（日本語・英語、5 つまで）、図表、注、文献を含む。
- ＊ 超過分については、印刷費の一部として、1 ページあたり 1 万円を著者の負担とする。

〈英語の場合〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）設定で、原則 10 ページ以内（最大 12 ページ以内）。
- ＊ フォントは Times New Roman、文字サイズは 10 ポイントとする。
- ＊ 上記のページ数には、表題、要旨（日本語：400 字程度、英語：200～300 語程度）、キーワード（日本語・英語、5 つまで）、図表、注、文献を含む。
- ＊ 超過分については、印刷費の一部として、1 ページあたり 1 万円を著者の負担とする。

(2) ショートレポート

〈日本語のみ〉

- ・ A4 縦置き・横書き、50 字×45 行（2 段組）で、4 ページ以内。
- ＊ フォントは、(日) MS 明朝、(英) Times New Roman、文字サイズは 10 ポイントとする。
- ＊ 上記のページ数には、表題、要旨（日本語：300 字以内）、キーワード（日本語・英語、5 つまで）、図表、注、文献を含む。

8. 原稿提出に際しては、別紙の「投稿チェックリスト」もあわせて提出する。そこに、第一著者の氏名（ふりがな）、所属（職名その他を含む）、連絡先（郵便番号、住所、電話番号）、希望区分（研究論文、実践報告、ショートレポートのいずれか）を記入する。

(用語)

9. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。ただし、特殊な文字、用語ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
10. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。

(注・文献)

11. 注及び文献は、論考末に一括して掲げる。引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。文献の書き方については以下を参照のこと。

〈例〉

①論文

- ・ 田口真奈 (2007). 「高等教育における IT 利用実践研究の動向と課題—e ラーニングと遠隔教育を中心に—」『京都大学高等教育研究』13 号, 89–99.
- ・ Dall’Alba G., & Barnacle, R. (2007). *An ontological turn for higher education. Studies in Higher Education*, 32(6), 679–691.

②単行本

- ・ 田中毎実 (2003). 『臨床の人間形成論—ライフサイクルと相互形成—』勁草書房.
- ・ 京都大学高等教育研究開発推進センター (編) (2003). 『大学教育学』培風館.
- ・ 松下佳代 (2010). 「〈新しい能力〉概念と教育—その背景と系譜—」松下佳代 (編著)『〈新しい能力〉は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー—』ミネルヴァ書房, 1–42.
- ・ Hermans, H. J. M. (1995). From assessment to change: The personal meaning of clinical problems in the context of the self-narrative. In R. A. Neimeyer, & M. J. Mahoney (Eds.), *Constructivism in psychotherapy* (pp. 247–272). Washington, DC: American Psychological Association.
- ・ Hermans, H. J. M., & Kempen, H. J. G. (1993). *The dialogical self: Meaning as movement*. San Diego: Academic Press. ハーマンス, H.・ケンペン, H. (2006). 『対話的自己—デカルト／ジェームズ／ミードを超えて—』(溝上慎一・水間玲子・森岡正芳訳) 新曜社.

12. 文献と注を区別し、注は本文中の該当個所に、上付き文字で1、2……と指示し、論考末尾にまとめて記載する。
13. 文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名，出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a、b、c……をつける。

〈例〉

- ・田中（1995a）が強調するように
- ・……という調査結果も提示されている（田中ほか，1996）。

（その他）

14. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし掲載誌2部を贈呈する。なお、抜刷については、希望があれば実費で作成する。
  15. 投稿は随時受け付けるが、発刊期日との関係で、年1回の締切日をもうける。
    - ①原稿締切日：8月31日23時59分まで
    - ②提出方法：電子メールの添付ファイル（PDFファイル）による。
    - \*ただし、3日以内（土日祝日含まず）に受領返信メールが届かなければ、お問い合わせください。
    - ③提出先：kiyou[at]highedu.kyoto-u.ac.jp（[at]を@に置換してください。）
  16. 掲載された論考の著作権は京都大学高等教育研究開発推進センターに属する。
  17. 本規程の改正は編集委員会が行う。
- （附則）本規程は、2016年度発行の『京都大学高等教育研究』第22号から施行する。

#### ■問い合わせ先

『京都大学高等教育研究』編集委員会

kiyou[at]highedu.kyoto-u.ac.jp（[at]を@に置換してください。）

\*メール送信の際、件名に「京都大学高等教育研究についての問い合わせ」とお書きください。



『京都大学高等教育研究』第22号 編集委員会

編集委員長	松 下 佳 代	
編 集 幹 事	後 藤 崇 志	
編集協力者	飯 吉 透	溝 上 慎 一
	田 口 真 奈	酒 井 博 之
	山 田 剛 史	奥 本 素 子
	岡 本 雅 子	福 田 宗太郎
	鈴 木 健 雄	斎 藤 有 吾

平成28年11月30日 印刷

非売品

平成28年12月1日 発行

発 行 京都大学高等教育研究開発推進センター  
京都市左京区吉田二本松町（〒606-8501）  
TEL 075-753-3087  
FAX 075-753-3045

印 刷 中西印刷株式会社  
京都市上京区下立売通小川東入ル  
TEL 075-441-3155

# Kyoto University Researches in Higher Education

vol. 22

## CONTENTS

### I Articles

#### Educational Practice Reports

- Experimental Uses of Selective Re-Viewing Support System Based on Kit-build Concept Map with Video Lecture  
..... Yusuke HAYASHI, Keisuke MAEDA, Toshio HONDA, Takuya KITAMURA,  
Michiko KAYASHIMA & Tsukasa HIRASHIMA
- Development of a Regional Revitalization Model for University Students through the Transformation of Local Communities:  
Case Studies of Regional Revitalization Based on the Introduction of Footpaths in Regional Cities  
..... Yoshitaka MITATE, Yuji HIROKAWA, Fumitoshi MURAE & Akira UCHITA
- Scaffolding Skill-Integrated Tasks for Academic English: With Special Reference to Students' Proficiency  
..... Kyoko HOSOGOSHI, Toshiyuki KANAMARU & Sachi TAKAHASHI
- Professional Development of Next-Generation Managers and Leaders to Promote Innovation in University Education  
..... Yurie WADA, Yu SAITO & Kazuhiro SUGIMOTO
- A Study of the Assessment of Student Learning and Educational Practice in Service-Learning Programs  
..... Hironori YAMAGUCHI & Toru KAWAI
- An Entrance Examination That Utilizes Performance Assessment to Support the Articulation between High School and University:  
A Study of a Unique Entrance Examination Designed by the Faculty of Education, Kyoto University  
..... Takashi KUSUMI, Hirotaka NANBU, Kanae NISHIOKA, Tsuyoshi YAMADA & Yugo SAITO

#### Research Notes

- The Study of Assessment of Information Literacy Instruction in Academic Libraries in Japan: Based on Types of Learning Assessment  
..... Ken IIO
- Teaching Argumentative Writing through a Process-focused Instruction:  
The Effects of the Prewriting Activity on Student Perceived Learning ..... Kayo TSUJI

#### Short Reports

- Educational Effect of Kayaking in Nature as Active Learning ..... Mika MATSUO & Masamitsu MOCHIZUKI
- The Difference between Self-evaluation and Partner-evaluation in Cooperative Learning  
..... Keiko AKIMOTO & Shohei YOSHIMURA
- The Current State and Issues of Academic English Curricula in Japanese Universities: Findings of a Survey Study  
..... Yuka IJIMA, Atsuko WATANABE, Sayako MASWANA, Hironori WATARI, Shinya HORI,  
Sachi TAKAHASHI, Toshiyuki KANAMARU, Akira TAJINO & Hajime TERAUCHI
- The Practice of a Teaching Method for Active Learning ..... Yasuo YAMAZAKI
- Educational Effects of Long-Term Internship Programs ..... Yojiro TAKASAWA & Hidetoshi SAIJO
- Demonstrative Report Writing and the Generation of Questions: A Case of First-Year Education  
..... Wakako FUSHIKIDA, Yuki ANZAI, Nao ITO & Yuhei YAMAUCHI
- Investigating Personality Traits for Active Learning: Data Analysis Based on Experiments Using LTD and Jigsaw  
..... Minori SHIMADA, Hiroko TOMIOKA & Yumi MORIKAWA
- Course Planning to Promote Reflection in Learning: A Case Study of a First-Year Active Learning Education Program  
..... Yuka KUBOTA & Hiroshi YOSHIDA

#### Trends of Higher Education (Invited Papers)

- How Institutional Researchers Utilize Indicators for Educational Planning in Japanese Universities ... Takeshi MATSUDA
- The Educational Transition from High School to University in the Learning and Development Paradigm:  
"Connecting and Connected" by Active Learning ..... Atsushi KAWATSUMA

#### Articles by the Center Staff and Research Fellows

- A New Framework for Competencies: 3-3-1 Model ..... Kayo MATSUSHITA
- Developing the Active Learning (Externalization) Scale by Bifactor Model  
..... Shinichi MIZOKAMI, Tomoko MORI, Hiroaki KONDA, Toru KAWAI,  
Norihiro MIHO, Shuji HONDA, & Yoshinori YAMADA

### II Documents

CENTER FOR THE PROMOTION OF EXCELLENCE IN HIGHER EDUCATION

Kyoto University

2016